

辰野町議会第5回議会報告会

実施期日 平成25年11月15日(金) 午後6時30分から午後8時

実施場所 辰野町役場第6会議室

出席者 町民46名 議員14名 合計60名

司会進行 船木議会運営委員長

(1)開会あいさつ 宮下副議長

(2)主催者あいさつ 篠平議長

(3)6月・9月定例議会等活動報告

①総務産業常任委員会 定例会審議状況

活動報告 報告者 中谷委員長

②福祉教育常任委員会 定例会審議状況

活動報告 報告者 三堀委員長

質疑応答 なし

(4)第4回議会報告会で質問のあった、国保制度に関する議会での取り組みの報告

報告者 岩田議員(福祉教育常任委員会)

質疑応答 なし

(5)意見交換

テーマ①有害鳥獣駆除対策について

②学校教育について

【1】①有害鳥獣駆除対策について 中谷総務産業委員長

今回の有害鳥獣対策をテーマに取り上げた理由について

多くの議員が一般質問で取り上げるなど町民の関心が高い課題であること、課題の解決が困難で依然として深刻な問題となっていること。などから今回のテーマとして取り上げた。

②資料説明 堀内総務産業副委員長

意見<1>

イノシシ、鹿については食材として活用することを考えている。埼玉県での取り組み実例があるが、低温殺菌という特殊なやり方がある。資料があるので、機会があれば説明したい。また、試作品もあり、現在も検討中である。埼玉県とも相談している。

答弁〈1〉 中谷委員長

鹿、イノシシの肉の流通促進については、中川村で施設建設を進めている。茅野にも視察に行ってきた。今後、町に積極的に提案していきたいと思っている。

意見〈2〉

有害鳥獣の被害報告について、猟友会との連携等はどのようなフローになっているか。有賀峠で20頭もの鹿にであった。個体の調整が喫緊の課題であると思う。年間捕獲予定頭数などは誰が数字を決めているか。

答弁〈2〉 中谷委員長

平成25年5月駆除対策実施隊が猟友会員108名で発足した。全域で活動しているが思うような成果につながっていない面もある。できるだけ地域で協力して駆除を進めてほしい。他の地区から応援することは困難と考えている。最大の駆除方法は地域ぐるみでおこなうことだと思う。電策などの施設の整備については、予算の確保を進めたい。個人ではできないので、地域での組織的な取り組みをお願いしたい。食肉利用への取り組みも進めたい。

意見〈3〉

11月15日から狩猟解禁となったが、川島地区には誰も入っていなかった。小横川地区には多く入っていた。私は、4年前からワナで捕っている。捕れば確実に減っている。

狩猟に従事するには、狩猟免許を取って、猟友会に入会することが必要であるので、若い人など多くの方が免許を取得して参加してほしい。最近、川島地区では、比較的若い人が入会しているので、その他の地区でもぜひ若い人に参加してほしい。

竜東地区では鹿が増加している。羽北には500頭のクマがいるといわれている。クマについてはこれ以上のもの駆除することになっている。少ないという感じがするかもしれないが駆除するしかない。

答弁〈3〉 堀内副委員長

有害鳥獣の数を減らす、農作物を守る、これが大切。農地で、無意識にえさ場を作っている例がある。とくに冬場も要注意であり、えさ場は年間を通じて作らないことと通年の対策を講じることが必要であることを強調したい。

【2】②学校教育について 三堀福祉教育委員長

資料説明

意見〈4〉

両小野学園の立ち上げから運営委員会にいたるまで、一般のボランティアとして参加している。両小野学園は、これからコミュニティースクールとして検討段階にはいっている。両小野の場合、行政が違う二つの地域がかかわっていることに困難さがあることを議員のみなさんに理解していただきたい。まず、同じ学校に通学していても、情報面で一緒ではないことから、学校を通じて地域が一緒になることを目指している。小学校長は、保育園まで対象を広げてプログラム、カリキュラムの一体化をめざしている。

過日、県の教育委員会が視察で見た時や三鷹市の教育委員長の話で、財政のためにやっているのではないことを基本に据えることが重要といわれたが、我々は何のためにやっているのか。お金のためにやっているのではないことを議会も理解してほしい。教育ということを念頭に入れて考えていただきたい。子供が大きくなって、自分の育ったところが良いところだったと思えるような教育をしているので、ご支援をいただきたい。

コミュニティースクールからスクールコミュニティーに発展している、学校を中心とした地域づくりが全国に広がっているが、そうした動きを通してみんなで集えるよう協力をお願いしたい。

答弁〈4-1〉 三堀委員長

両小野学園を視察して、学校が地域を作るということ聞いて感心した。さらに詳しく検討していきたい。

答弁<4-2> 宇治議員(福祉教育常任委員会)

そもそもなぜ小中一貫であったかについて言うと、行政が違うということで、子どもが少なくなって、行政が違うから、辰野地域の子どもは辰野の学校に統合される。塩尻は塩尻地区に統合される。そうすると、地域から学校がなくなってしまう。このことが一番の危機感であり、住民のニーズであった。言ってみれば、少子化の流れを地域としてどのようにとらえていくかという問題であった。地域の振興に学校を使っているという批判が一時あったが、学校はなくてはならないという立場から構想をまず示して、地域住民の賛同を得ることを7年前に始めた。実際に開始されて3年目だが、歴史と文化の町である小野のことを、子どもの時代から理解してもらい、良いところだという理解を得ることを「たのめ科」の内容とした教材に取り入れた。全国的には一貫教育は10年前から取り組んでいる。呉市や横浜市などでは建物も一体化して取り組んでいるが、小野の場合は費用面でそうはしなかった。都市部の一貫教育では、カリキュラムを見直し、学力をつけることも目標にしているが、地方は、子どもがいなくなればどうするのか、というニーズのほうが大きい。

県内では4か所実施しているが、建物を一体化しているところとそうでないところは半々である。特徴のある地域で小中一貫教育をしている。小野地域では、75%の住民が賛同している。鮭の回帰と同じ考えである。

意見<5>

学童クラブについて、辰野町では、発足して20年が経過した。今までは民間で実施していたが、国の方針が変更され、来年度から辰野町でも町が運営することになった。報道では、来年度も今までどおりの運営とのことであるが、金額については、現在一人当たり8,000円、おやつ代が1,200円であるが、子育て世代にとっては、大きな負担となっている。来年度から町の運営となることから、この金額が安くなることを期待するが金額について具体的に話し合いがされているか伺いたい。

答弁<5> 三堀委員長

教育委員会の所管であるが、詳しく把握していない。負担軽減については努力していきたいが、教育委員会の所管であるので、議会の立場で検討したい。

意見〈6〉

川島小学校について、25名で子どもは少ないが、町の陸上大会、音楽会などにはすべて参加しているし、自転車大会では、県下第3位という立派な成績を残している。児童が少ないからだめではない。学校との懇談会を実施したようであるが、保護者を含めた懇談会を実施してほしい。保護者の中から減ってしまうという部分もあるので保護者の気持ちを理解してほしい。

答弁〈6〉 三堀委員長

実際に子どもを持っている保護者との懇談を計画している。議会として川島小に行ってみて、外からは見えない部分も見えてきた。教職員が、子どもたちにとって川島小学校はどうあるべきか真剣に取り組んでいること、陸上競技大会や自転車大会などで立派な成績を残していることなどを認識した。懇談会の折にはご意見をいただきたい。

【3】テーマ以外の意見交換

意見〈7〉

新町区では、アパートが多く、その世帯は約40%を占めており、町民であるが区民でない実態がある。このままでいくと、リニアが通るころには、この数字は逆転する可能性が大である。そうすると、自治会としての活動もおかしくなってくる。

ライフラインが寸断されるような災害が起こったときに、区の防災組織では、アパートの世帯とコミュニケーションがとれない。だれが住んでいるか一部を除いてほとんど知らないという問題がある。一般質問のに対する答弁を聞いても、残っている問題があると思うので、検討を進めてほしい。

答弁〈7〉 宮下副議長

一般質問で町に質している。南箕輪村も同様な問題を抱えている。地域自治会にほとんど入らない悩みがある。町に要望はしているが議会としても更に勉強していきたい

意見〈8〉

議会報告会について要望したい。今回の資料は議会広報であるが、読んだ人はすでに承知していることである。もったいないと思う。また、報告会という形で5回目となっているが、こういう方向ではコミュニケーションに入っていけない、参加していけないという気がする。報告会というと議員の皆さんは定例会のことを報告しなければとの思いかもしれないが、そこには私たちは参加していけない。むしろ懇談会の方向で参加できればいいと考える。

報告について常任委員長が報告しているが、すべて委員長が報告するのではなく、せっかくの機会であるので、他の議員が説明するなどの工夫をしてほしい。参加者の多くがそれを望んでいるのではないか。一考願いたい。

答弁〈8〉 篠平議長

今回で5回目となり、そのたびにアンケートをいただいている。その中にご要望の意見もあった。今回は総務産業常任委員会では、副委員長が一部について説明するように変えた。全員の議員が意見を言えればよいが、そのようにもいれないので、これからは、他の議員が説明するようなことを試行錯誤しながら工夫していきたい。

定例会の報告ではない内容に変えていくということについては、今後議会内部でどういう懇談会がよいのか話し合いたい。全般とするといろんな意見が出るので、前回からテーマを決めて実施しているが、ご要望については、今後検討していきたい。

以上で意見・要望は終了

(6)閉会あいさつ 宮下副議長